

新潟小児看護研究会

NEWS LETTER

vol.35

2025.June

2024年度 新潟小児看護研究会を開催しました 「発達障がいのある子どもの理解と痛みへのケア」

2024年9月28日(土) 13:00-15:30

近年、発達障がいと診断される子どもたちが増加傾向にあります。発達障がいの子どもは、認知特性から場面に応じたコミュニケーションや気持ちの切り替え、見通しを立てることなどが難しく、治療や処置に対する理解の困難さもあり、医療行為を受ける上で多くの困難を抱えています。障がい特性に関する知識を基に、医療の場において子どもの個別性に配慮した対応を皆さまと共に考えたいと思い、今回のテーマを「発達障がいのある子どもの理解と痛みへのケア」といたしました。

新潟大学 有川先生からは「発達障害の理解と子どもの育ちを支える関わり」について、子どもの理解・体験している世界や、今私たちができる支援を考え行動

につなげる大切さについてお話をいただきました。

はしもと小児科 伊藤先生からは「発達に課題のある子どもへの痛みケアの実際」について、クリニックにおける予防接種時の痛みケアの実践を具体的にお話いただきました。

講演後の質疑応答では臨床で直面する困難に対し、具体的な支援について多くの示唆を得ることができました。今回は対面開催と併せてオンライン配信を行い、県内外から約100名の方にご参加いただき誠にありがとうございました。研究会の学びが実践につながり子ども達の支援の一助となりますことを心から願っております。

企画担当 田中美央、坪川麻樹子、沼野博子

第1部

「発達障害の理解と子どもの育ちを支える 関わり」

講師 有川 宏幸 先生

新潟大学人文社会科学系教育学系列 教授

有川先生からは、発達障害の子どもの関わりとして、個々の特性に対する、理解と共感が重要であることを述べられていきました。具体的には、子どもの特性を理解し、それに応じたサポートを提供することが大事であるということです。

例えば、明確で具体的な指示を出すことや、スマールステップで達成可能な目標を設定し、達成したときにはしっかりと褒めることで、成功体験を積ませることなどです。一人一人、感性や考え方が異なることを意識した上で、子ども自身の視点に立ち、個別に対応する姿勢を忘れないことが大切であることを、お話ししていただきました。



ディスカッションの場面
左 伊藤先生 右 有川先生

第2部

「発達に課題のある子どもへの痛みケアの 実際」

講師 伊藤 舞美 先生

医療法人社団まなと会 はしもと小児科看護師長

伊藤先生からは、発達に課題のある子どもへの痛みケアでは、子どもの特性を理解し、適切な対応を行うことが重要であることが述べられていました。

近年、子どもの痛み体験が長期的な影響を与えることが明らかになり、より丁寧なアプローチが求められていることを紹介していただきました。痛みの対応においては、プレパレーション（事前説明）やディストラクション（注意そらし）の活用、外用鎮痛薬の使用、さらにはシール型パッチ剤などの新しい手法が紹介されました。また、子ども自身の希望を尊重した対応や、幼少期でも、きちんと説明することの大切さを皆さんに説明してくださいました。

第3部

「支援のためのディスカッション」

フロアからの多くの質問に対して、これからヒントになるような具体的なお話をいただきました。具体的には、保護者がわが子の発達障害の特性に気づかない・気づこうとしない場合の対応に関する質問に対しても、「家族」と一括りにせずに、一人ひとりの理解や状況を確認することから始める対応が必要とのお話がありました。その他、本人が気づいていない場合の対応、クリニックに特性のある子どもが初めて受診に来た時の対応、痛みを伴ったり不慣れだったりする処置時の対応等の質問があり、活発なディスカッションとなりました。

～参加者の皆さん之声 2024年度 新潟小児看護 研究会後のアンケート結果～

	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	そう思わない
興味深い内容でしたか	32(94.1%)	2(5.9%)	0	0
知識を深めることはできましたか	28(82.3%)	6(17.7%)	0	0
現場で活用できる内容でしたか	24(70.6%)	10(29.4%)	0	0
参加した目的が達成できましたか	23(67.6%)	11(32.6%)	0	0

34名の方からアンケートに回答していただきました。

全ての設問が「そう思う」「ややそう思う」に集約されており、肯定的なご意見をいただくことができました。

コラム 認定NPO法人ハートリンクワーキングプロジェクトの活動紹介

先駆的に小児がん経験者への就労支援で活躍されている団体を紹介します!!

私たちの活動は大きく二つあります。その一つとして、小児がん経験者が治癒後に医療保障付き生命保険加入が困難な上、加入者への不払いが全国に多く発生したため2007年「ハートリンク共済」を設立し経験者の社会的経済補償を確立しました。また約20年のデータにより二次がんの発症が治癒後約17年(中央値)とわかつきました。その収益金は小児がん学会等の運営資金に使用しています。もう一つは、治癒後の晚期合併症重度発症者の就労困難な方々に対し就労支援活動「認定NPO法人ハートリンクワーキングプロジェクト」を2011年に立ち上げ「ハートリンク喫茶」を運営したことです。全国対象に、訓練指導・資格取得等の教育をし既に12名を一企業への就職を

支援し自立をしています。当団体では様々な事業を開催し、ホスピタルクラウンを新潟で育成し各病院へ派遣し、子供たちに笑顔を届けています。この事業はコロナ禍になって3年半、月2回配信していました。

また、フォローアップが重要なことから医療者を対象に研究助成をもっています。様々なイベントを開催した収益金は拠点病院を通じ全国の小児がん経験者へフォローアップ手帳を製作し配布しています。

一人でも多くの助かった命が将来に向け自立できることが患者家族の安心につながる。社会人となった卒業生の笑顔の現況報告が何よりも私は嬉しい。

学生の皆さんにもイベントのお手伝いをしてくださる方、随時募集しています!

副理事長 林 三枝



ホスピタル・クラウンの小児病棟への配信風景



就労支援活動:ハートリンク喫茶

参加者募集 2025年度 新潟小児看護研究会のおしらせ

テーマ 感染対策における入院中の子どもの権利について考えよう! シンポジウム& 交流会

日時 2025年9月27日(土) 13:00-15:30

場所 新潟青陵大学 1号館 2階 講義室

お申し込みは下記のURL
またはQRコードから
締切: 9月24日(水) 17:00



シンポジスト

- 青木美栄子氏 新潟大学医歯学総合病院 感染管理認定看護師/看護師長
- 高木香織氏 新潟大学医歯学総合病院 小児病棟看護師
- 岩島由佳子氏 長岡赤十字病院 小児病棟看護師長

対象:小児看護を実践している看護職者 看護教員、看護学生、テーマに関心のある医療従事者

参加費 会員500円 非会員1000円 学生300円

<https://forms.gle/c1L9nzYpNV2BsVWi>

会員募集

新潟小児看護研究会では、会員の方を常時募集しています。入会をご希望の方は、ホームページの「入会ご案内」のページをご覧ください。

事務局連絡先 :

E-mail: info.niigatachild※

※の部分に、@をつけて gmail.com と入れてください。

編集後記

今号では「発達障がいのある子どもの理解と痛みへのケア」研究会の様子をご紹介しました。県内外からの参加があり、活発な質疑応答が行われました。久々の対面開催となり、直接の対話は貴重な機会となりました。今後の研究会でも多くの方のご参加をお待ちしています。

編集委員:青野、桐原、住吉